

1. 小児歯科患者の取り扱い

－ 安全性の面からの追及 －

○橋本敏昭（北九州市・はしもと小児歯科）

木村光孝（九歯大・小児歯）

我々小児歯科医は様々な角度から小児の取り扱いをいかに行うかについて努力しておりますが、小児の取り扱いについての報告は心理的な方面から考察した場合が多く、安全性の面から追求した報告は少ない。非協力児などに生じやすい事故などの補償問題など患者側の発言力が強くなった現代社会において小児歯科医療に携わる我々は常に危険にさらされている。そこで今回、演者らは小児歯科治療をより安全に行うために日常の臨床を通して報告いたします。

2. 長崎県における小児歯科診療の現状

細矢 由美子，○松本史子，中村友美，後藤譲治

（長大・歯・小児歯）

我々は、地域社会の中で大学病院小児歯科の置かれている立場を理解し、地域医療に参与すべく、基礎的データを収集中である。すでに第22回日本小児歯科学会において長崎市の歯科医師会会員を対象にアンケート調査を行い、第1報として発表した。今回は、調査をさらに進め、長崎県全域における歯科医師会会員に対するアンケートの結果をまとめたので報告する。

3. 当診療所に来院した3才未満児の実態について

○松浦 美智子，岡本 高三郎

（福岡市・千鳥橋歯科診療所）

老人保険の一部有料化などによる成人の歯科受診抑制傾向や、小児重症う蝕減

少などによる小児歯科の患者減少傾向が一般に言われている。私共の診療所に於いてもこのような傾向はみられるが、その中で3才未満児の受診状況は少し異なるようである。今回昭和57～59年の各4～6月に初診来院した3才未満児100余名について調査を行った。その中から、主訴・う蝕状況・治療協力状態・家庭での口腔管理状態等について報告する。

4. 小児歯科臨床におけるコンピューターの利用

○増田純一

(福岡市・マスタ小児歯科)

小児歯科において、子どもの発育確保のためには、経年的管理が必要であります。私は、マイクロ、コンピューターを活用することにより、子どもの経年的管理だけでなく、開業経営上必要な市場調査と患者分析も行っています。昭和57年9月1日より昭和58年8月31日までの1年間のデータ集計と、コンピューターの活用方法を発表いたします。

5. APFゲルを用いたフッ化物局所応用(第1報)

— とくに印象法について —

○篠崎英一(福岡市・しのぎき歯科・小児歯科)

木村光孝(九歯大・小児歯)

フッ化物局所応用で、唾液分泌量が多い3～5才の幼児に対してAPFゲルを用いたトレイ改良法を実施している。この方法は、トレイ装着固定中にゲルが唾液からほぼ完全に隔離される為不快感を味わう事がない。かつ嚥下量も小量ですみ、又従来のトレイ法に比べてゲル使用量が少なく確実に全歯面に付着させる事が出来るので臨床上有効な手段と思われる。術式利点について報告します。